

赤おにと青おにのしたこと・言ったことに着目して、物語を読み取ることができるようにする。

なかよし6組 国語科学習指導案

指導者 吹田 美沙紀

1. 単元名 ここを読んで！『ないた赤おに』のオススメ場面

2. 学習材 『ないた赤おに』（教育出版 2年国語下）

3. 単元について

（1）本単元でつきたい力

本単元では、主に、小学校学習指導要領・国語〔第1学年及び第2学年〕の「C読むこと」における以下の能力を身につけさせることをねらいとしている。

C 読むこと

内容 イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。

エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。

言語活動例 イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。

物語は、中心的な人物（主人公）が、ある出来事をきっかけにして変わっていくというのが基本形である。変わるの気持ちであったり、行動であったり、ものの見方・考え方であったりする。中心的な人物が変化するときには、他の人物が関係していることが多い。本単元では、登場人物相互の関係をつかみ、物語の面白さを味わうことができるようにする。『ないた赤おに』では、主人公の赤おにに対して友達の青おにの存在が強く影響している。そこで、青おにや人間との関わりを通して、赤おにがどのような気持ちでどう行動したのか、場面ごとに変化していく様子に気づかせたい。

（2）本単元で行う言語活動

本単元では、物語を読む中で「赤おにと青おにのしたことや言ったことに着目し、そのときの様子や思いを話し合う」言語活動を行う。これは、小学校学習指導要領・国語「C読むこと」における言語活動例「イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動」を踏まえている。

はじめに、『ないた赤おに』全文を、紙芝居形式の読み聞かせで出合う中でおよその内容を把握し、どんなお話であるのかの感想をもち、発表させる。次に、場面ごとに言葉に着目して読みとる活動を通して、作品の場面ごとの登場人物（赤おに、青おに）がしたことを読みとることができる。そのために、場面ごとと本文が書かれたワークシートを用いる。本文だけでなく場面ごとの挿絵を掲示することで、この場面なのかを確認しやすくなる。さらに、赤おにと青おにがしたことや言ったことを子どもがワークシートの本文に色分けしていく。そうすることで、それぞれのしたことや言ったことがひと目で分かるようにする。最後に、全（七）場面の中から一つ、心にのこった場面を選び、友達に紹介するという言語活動を行う。友達への紹介文を書くために、心にのこった場面と、そのわけを書くことができるワークシートを用いる。

（3）学習材について

『ないた赤おに』は、昔話のような語りだしで始まる物語で、特に低学年の子どもにとっては読みやすい文章である。最初、赤おには人間と仲良くなりたいと思い、様々なことを考えた結果、立てふだを立てるという行動に至った。しかし、人間はその立てふだに書かれている言葉すら疑って、赤おにの家に入ろうとしない。それどころか、「だましてぼくらを食おうというつもりかもしれないぞ。」と話しながら、赤おにの姿を見た瞬間、逃げてしまうのであった。赤おにはその後、人間と仲良くできないことにむしゃくしゃしてしまい、自分の作った立てふだを壊してしまう。やさしい気持ちをもっているおに

ではあるが、自分の思いと人間の考えがすれ違っていることに対してうまく行動に移せず、立てふだを壊してしまうという行動をとってしまう。うまく行動に移せなかった赤おにの姿を、子ども達は日常生活の経験と結びつけて聞くことができるだろう。

その後、落ち込んでいる赤おにの前に、なかまのおにである青おにが現れ、赤おにのことを心配する。青おには、赤おにの願いのために協力してくれる作戦を考えてくれる。自分の願いのために協力してくれることを、悪いなと思いつつも実行してしまう様子や、青おにのことを心配しながら赤おにを退治する姿から、赤おにの心の葛藤を感じられる場面である。

青おにが逃げた後、悪いおにを退治してくれたということで村人と仲良くすることができた赤おに。人間と仲良くしたいという自分の願いは叶い、「前とかわって、今はちっともさびしいことはありません」と表現される。しかし、「けれども、ここに一つだけ気になることがありました。」と続く。そうして、最後の手紙の場面に行き着く。手紙を読みながら、赤おにが大切なものを失ったこと、大切なことは何かに気づかされること、自分の幸せのためではなく、人の幸せのために行動できる青おにの優しさに、赤おにを通して子どもも気づかされる内容である。

物語全編を通しての、赤おにと青おにの行動やそのときの思いについては以下の通りである。

赤おにと青おにの行動やそのときの思い（○赤おに、●青おに）

第（一）場面	○人間と友達になりたい赤おに ○人間宛てに、家の前に立てふだを立てた赤おに
第（二）場面	○立てふだを信用しない人間の様子を見て、悔しい思いをする赤おに
第（三）場面	○自分の思いが届かず、やけになる赤おに ●赤おにのことを心配する青おに
第（四）場面	●赤おにが人間に信用してもらうため、計画を提案する青おに ○青おにが立てた計画にすまないという気持ちをもちながら実行してしまう赤おに ●人間の前で暴れまわる青おに
第（五）場面	○人間を助けるためにやってきた赤おに ●強くなぐるよう助言し、わざと『悪いおに』の演技をする青おに ○青おにを心配しながらも、村から追い出した赤おに
第（六）場面	○人間たちと仲良くなった赤おに ○青おにが全く来ないことが気になる赤おに
第（七）場面	●自分がいると赤おにが幸せになれないと考え、手紙を残す青おに ○手紙を読んで、青おにの気持ちに気づき、涙を流す赤おに

『ないた赤おに』はこのように、赤おに・青おにのしたことや言ったことに着目して読んでいくと、赤おに・青おに・人間の3つの登場人物の関係性が分かりやすい題材である。場面の切り替わりもはっきりしており、2年生の子どもにとって場面ごとに読み取りやすい。そのため、場面ごとの赤おにと青おにの言動から、気持ちの変化にも気づくことができると考える。

本単元では、赤おにと青おにのしたことや言ったことに着目させ、そのときの気持ちを考えていく。たとえば、第五場面では「げんこつでコツンと一つうちました。」「いいから早くにげたまえ。」といった表現から、青おにに対して申し訳ないと思っている赤おにの気持ちが伝わる。「首をちぢめて小さな声で言いました。」「あわてたようなふりをして、わざとひたいをコツンとうちあてました。」といった表現からは、「赤おにと人間が仲良くなってほしい」という青おにの気持ちが伝わってくる。登場人物の言動が書かれた文章表現から、登場人物の気持ちを読み取りやすい題材であると言える。

単元の最後には、心にのこった場面を選び、自分の考えを紹介する活動を行う。心にのこったわけを友達に説明することで、自分の考えをより明確にすることができる。聞いている人は、友達の考えにも触れることができる。お互いに、自分と同じ考えに共感する、或いは違う場面を選んだ考えを知ることができる。そうすることで、心にのこった場面を自分なりに紹介する活動を通し、『ないた赤おに』の作品をより深く知ることができる。友達の紹介を聞くことで、自分と違う考えに出会い、『ないた赤おに』という作品の、様々な良さに気づくこともできる。さらに、人によって感じ方、考え方がちがうことにも気がつかせ、協同的な学び合いのよさも実感させたい。

（４）子どもの実態（２年生３名）

本学級の子どもたちは、物語を読んだ感想を積極的に発表する中で、自分の思ったことを言葉で伝え

ることは好きである。しかし、「おもしろかった」「たのしかった」などの簡単な感想は発表できるが、登場人物のしたことや言ったこと（文章表現）を根拠に感想を言うことは苦手である。そのため、読み取りの際には、登場人物の気持ちがどの場面で変わったのかに気づくことができないときがある。

『きつねのおきゃくさま』の学習では、初発の感想で「かなしいお話」と発表することはでき、最後のきつねが死んでしまうのが悲しいところと説明することができた子どもが一人いた。また、時間がかかったが、最後におおかみと戦った理由を説明することができた。しかし、戦ったわけを、「3匹を守るため」と発表はできたが、どうして食べようとしていた3匹を守るまでに至ったのかを、本文から根拠となる文を見つけて発表することは難しかった。

学習を進めていくと、ひよこ・あひる・うさぎと登場人物も場面ごとに増える中で「やさしい」「親切な」「かみさまみたいなの」というくり返しの表現に気づいた子どもがいた。他の子どもは、その子どもの発言や教師からの声かけを聞いてから、くり返しの表現に気がつくことができた。ただし、「春」「夏」と場面で季節が変わっていく様子も、他の二人は自分で気づくことはできなかった。気がついたあとは「場面のあいだでかなり時間が経っているんだね」と発言し、本文の内容を読みとることに対して、工夫して音読するなど、頑張っており取り組むことができていた。

子どもたちは聞くことに関しても課題があり、自分から発表することはできていても、自分とは違う意見を受け入れられなかったり、大事なことを聞き逃してしまったりする実態もみられる。友達が発表していても、自分の話をしたいという気持ちが先行してしまい、遮って話してしまうこともある。

普通の授業や生活の中では、集中力が短いことから授業中に立ち歩く、座っていることに我慢ができず、理由なくトイレに行こうとしたりするなど落ち着きがない様子が見られる。国語の時間には、集中力が切れ、注意が散漫になってしまうと、音読の際に行を飛ばして読んでしまうことがある。しかし、興味があるゲームの攻略本やアニメのキャラクター図鑑などには、時間を気にせずに集中して読んでいる様子が見られる。これには、興味をもったものに対しては、集中して取り組めるという側面が考えられる。

（5）指導観

読むことに関する支援～個に応じたワークシートを用いる～

個に応じたワークシートを使うことによって、音読だけでなく、読解の手助けとなるようにする。ひらがなの読みの獲得が十分でない子どもには、分かち書きのワークシートを使い、言葉のまとまりを意識して教師と一緒に読み進めるようにしていきたい。一人で読める子どもに対しては、赤おにと青おにの主語に気づくことができるように、主語を太字にしたワークシートと、太字になっていないワークシートを用意しておく。子ども自身が、どちらのワークシートで取り組むかを選択することで、主体的に学習を進めるようにしていきたい。太字になっていないワークシートを選んでも、学習の途中でつまづきが見られた際には、主語を太字にしたワークシートをヒントとして提示するようにしていく。

また、ワークシートをA3サイズ1枚にすることで、学習に集中して取り組むことができる環境を作る。机の上にはワークシートと赤青鉛筆のみを出すことを徹底し、より集中できる環境を作る。

話すこと・聞くことに関する支援～自分の考えを話すための教師の問いや手本～

赤おにや青おにの気持ちを考えて発表する際には、どうしてそう思ったのか、根拠となる本文を示して話ができるようにしたい。そこで、教師が「どうしてそう思ったの?」「お話のどの部分を読んでそう思ったの?」などと問うことで、理由となる文や言葉を意識させていきたい。また、色分けしたワークシートの本文から、理由となる文や言葉を探そうできるようにする。そして、「～だから」「～なので」などの理由を述べる話し方で話そうできるように教師が手本を示したり、友達の話し方を真似たりできるように声をかけていきたい。

さらに、話の途中で自分の思ったことをすぐに口に出したり、集中力に欠けたりする実態があることから、友達の発表を最後まで聞いてから発言するルールを確認したり、話している人の方を見て、話を聞くように個別に声をかけたりしていきたい。

書くことに関する支援～個に応じたひらがなの表の活用や見直し～

単元の最後に心にのこった場面を紹介する活動では、自分の好きな場面を選ぶことができるように、場面の挿絵を掲示する。また、ひらがなの習得が十分でない子どもには、ひらがな表を見ながら書いたり、まず目のあるワークシートに書き込んだりできるようにする。助詞や促音などに誤りが目立つ子どもには、自分で読み返すことで、正しく書くことを意識できるようにしたい。

〔授業の前に〕

□児童の、発問に対する反応や課題に対する考えを予想する。

①おにに対するイメージをもたせてから、赤おにと青おにの言動の意味や様子を想像できるようにする。

おにというのは、昔から人間に恐れられてきた存在である。『ももたろう』など、昔話の中では怪物や悪い存在として描かれていることが多い。本文中にも「おそろしいやつだと、だれでも思うでしょう。」と語られている。第一次の導入で、「おにって聞くと、どういうイメージがある？」と発問すると、子どもからは「怖い」「強い」などという反応が予想される。そこで、おにのイメージを引き出した上で、「怖い、強いおにが泣くってどういうこと？」と、題名から想像できることを子どもから引き出し、作品に対する興味がもてるようにする。また、絵本の挿絵を使った読み聞かせで物語と出合うことで、作品に対するイメージがもちやすくなり、場面ごとに読みとる学習でも自分で想像しながら読んでいくことができるようにする。

〔見出す〕

□本時（本単元等）の目標（めあて・ねらい）を児童に明示する。

②単元計画表や本時の流れを掲示し、学習の見通しをもつことができるようにする。

第1次で、子どもたちに、最後に自分が心にのこった場面を友達に紹介するということを伝えることで、『ないた赤おに』という作品を読んでいくことに対しての目的意識をもたせ、意欲を高める。そして、そのためにこれからどのような学習をしていくかが分かる単元計画表を掲示することで、子どもたちが、学習の見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができるようにする。さらに、毎時間本時の流れが書いてあるホワイトボードを掲示することで、子どもたちが安心して学習に参加することができるようにする。

〔自分で取り組む〕

□児童一人一人の様子を把握し、早めに解決できた児童や、つまづいてしまっている児童に対する次の手立てを準備する。

③色分けした線を引かせることで、赤おにと青おにの言動を読みとることができるようにする。

本単元では、「赤おには」という主語を赤鉛筆、「青おには」という主語を青鉛筆を使って丸で囲み、その後に続く文章に線を引いて色分けをしていく。色分けをすることで、どちらのおにがしたこと（言ったこと）なのかが分かりやすくなり、全体で発表する際にも自信をもって発表することができる。赤おにと青おにの言動を見つけていく中で、場面ごとの登場人物の変化にも気づくことができるようにしたい。

〔広げ深める〕

□児童が新たな考えに気付くことができたか確認し、個に応じた助言をする。

④言葉に着目することで、赤おにと青おにの言動の理由を考えることができるようにする。

第五場面（本時）では「げんこつでコツンと一つうちました。（赤おにのしたこと）」「ぽかぽかなぐれ（青おにのいったこと）」等といった赤おにや青おにの行動が分かる表現がたくさん出てくる。そこで、「コツンと」「ぽかぽか」等という言葉に着目し、子どもたちに動作化や役割演技をさせることで、その言葉の意味を考えさせるようにしたい。そして、教師との対話や、友達の考えを聞くことを通して、赤おにと青おにの行動を深く読みとることができるようにしたい。

〔まとめあげる〕

□児童が学んだことを確実に身に付けるために、練習問題等に取り組んだり、「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすか考えたりする場面を設定する。

⑤今回の単元を通して、他の文学作品にも興味がもてるようにする。

今回の学習を通して、『ないた赤おに』以外の文学作品にも興味がもてるようにする。本単元を終えたあとも、「おにの本を読もう」「昔話を読もう」と呼びかけて、学級文庫や図書室の本を活用し読み聞かせを継続するなどして、今後の読書活動につなげられるようにする。物語をじっくり読み自分の言葉で紹介する活動を今後も行っていき、教科書以外の文学作品にも興味をもち、意欲的に読もうとする態度も育てていきたい。

4. 単元の見つけ

赤おにと青おにのしたことや言ったことを見つて、理由を考えることができる。

【知識・技能】…㊸

○場面ごとの、登場人物のしたことや言ったことを読みとることができる。(1 A (1) イ)

【思考力・判断力・表現力等】…㊸

○赤おにと青おにのしたことや言ったことについて、その言葉の意味やそのときの様子を考えることができる。(2 A (1) エ)

【主体的に学習に取り組む態度】…㊸

○心に残った場面を選び文章の言葉を基に紹介しようとしている。(1 A (1) イ)

5. 全体指導計画 (10時間扱い)

次	時	○本時の目標 ・活動内容 ☆【評価】(方法)	指導 形態
1	1	○『ないた赤おに』を初めて読んだ感想を話し合うことができる。 ・題名を聞き、どんなお話なのか想像する。 ・『ないた赤おに』を全文読み、初発の感想を話し合う。 【主体的に学習に取り組む態度】 物語を注意深く聞き、自分なりの感想を発表しようとしている。(発言・観察)	一斉 個別
2	2	○(一) 場面の、登場人物の言動を読みとることができる。 ・赤おにがどんな性格であるのかを読みとる。 【知識・技能】赤おにの言ったことやしたことを見つてることができる。 (ワークシート・発言) 【思考力・判断力・表現力等】 赤おにはどんな性格なのか、文章の言葉から考えようとするすることができる。 (発言・観察)	一斉 個別
	3	○(二) 場面の、登場人物の言動を読みとることができる。 ・赤おにのしたことを読みとる。 ・信じてくれない人間を見た赤おにがどんな行動をとったのかを読みとる。 【知識・技能】赤おにの言ったことやしたことを見つてることができる。 (ワークシート・発言) 【思考力・判断力・表現力等】 自分の思いを信じてくれない人間に対して、赤おにがどんな行動をとったのかを文章の言葉から考えることができる。 (発言・観察)	一斉 個別
	4	○(三) 場面の、登場人物の言動を読みとることができる。 ・赤おにと青おにがしたことを読みとる。 ・立てふだを折ったことから、赤おにがどうしてその行動をとったのかを読みとる。 【知識・技能】赤おにの言ったことやしたことを見つてることができる。 (ワークシート・発言) 【思考力・判断力・表現力等】 自分の思いが人間に届かない赤おにが、どんな行動をとったのかを文章の言葉から考えることができる。 (発言・観察)	一斉 個別
	5	○(四) 場面の、登場人物の言動を読みとることができる。 ・赤おにと青おにがしたことを読みとる。 ・青おにが作戦を立てたときの、赤おにと青おにの様子を読み取る。 【知識・技能】赤おにと青おにの言ったことやしたことを見つてることができる。 (ワークシート・発言) 【思考力・判断力・表現力等】 作戦を立てたときの赤おにと青おにの様子を、文章の言葉から考えることができる。 (発言・観察)	一斉 個別

	6 本 時	○（五）場面の、登場人物の言動を読みとることができる。 ・赤おにと青おにのしたことを読みとる。 ・人間の前で演技をしているときの、赤おにと青おにの様子を考える。 【知識・技能】赤おにと青おにの言ったことやしたことを見つけることができる。 (ワークシート・発言) 【思考力・判断力・表現力等】 人間の前で演技をしているときの、赤おにと青おにの様子を文章の言葉から考える。 (発言・観察)	一斉 個別
	7	○（六）場面の、登場人物の言動を読みとることができる。 ・赤おにと人間のしたことを読みとる。 ・人間の行動がどう変わったのかを読みとる。 ・人間と仲良くなることができたときの赤おにの様子を考える。 【知識・技能】場面ごとの、登場人物の言動を読みとることができる。(ワークシート) 【思考力・判断力・表現力等】 人間と仲良くなったときの赤おにの様子を、文章の言葉から考えることができる。 (発言・観察)	一斉 個別
	8	○（七）場面の、登場人物の言動を読みとることができる。 ・手紙を書いた青おにと、それを読んだ赤おにの様子を読みとる。。 【知識・技能】場面ごとの、登場人物の言動を読みとることができる。(ワークシート) 【思考力・判断力・表現力等】 手紙を読んだときの、赤おにのしたことや様子を文章の言葉から考えることができる。 (発言・観察)	一斉 個別
3	9	○学習を振り返り、心にのこった場面を選ぶ。 ・場面ごとに読み取ってきた内容を基に、自分が心に残った場面を文章で書く。 ・文章の言葉を根拠に紹介できるよう、紹介文を考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 心に残った場面を意欲的に選び、文で表そうとしている。(ワークシート・観察)	個別
	10	○心にのこった場面を友達に紹介する。 ・自分が心にのこった場面を友達に紹介する。 ・友達の発表を聞きながら、気になったところは質問する。 【思考力・判断力・表現力等】 心に残った場面を、自分なりの言葉で表現できている。(ワークシート・発言) 【知識・技能】場面ごとに読みとりながら、内容を理解している。(発言・観察)	一斉 個別

本時の指導（6／10）

○言葉に着目しながら赤おにと青おにのしたことや言ったことを見つけ、赤おにと青おにのしたことばやしたことについて、その言葉の意味やそのときの様子を考えることができる。

- A児 主語を本文から見つけ、赤おにと青おにのしたことや言ったことを読みとることができる。…㊦
赤おにと青おにの赤おにと青おにのしたことや言ったことについて、その言葉の意味やそのときの様子を考えている。…㊦
- B児 文章から、赤おにと青おにのしたことや言ったことを読みとることができる。…㊦
赤おにと青おにのしたことや言ったことについて、その言葉の意味やそのときの様子を考えている。…㊦
- C児 文章から、赤おにと青おにのしたことや言ったことを読みとることができる。…㊦
赤おにと青おにのしたことや言ったことについて、その言葉の意味やそのときの様子を考えている。…㊦